

## 安全・安心の「市川市」の街づくりを推進!

### ◆東京外かく環状道路周辺の安全対策を推進!

赤間:市川市内における、東京外かく環状道路周辺の生活道路や通学路上の交通安全対策などについて、今後、県警としてどのように取り組むのか。

警察本部長:東京外かく環状道路の開通に伴う周辺道路の安全対策につきましては、地域住民の意見、要望を伺い、信号機や横断歩道等を整備。今後、国道298号の副道等の供用に伴う交通安全対策につきましても地域住民の意見を聞きながら、関係機関と連携し、交通安全対策に万全を期したいと考えております。

### ◆広域避難対策として「押切橋」「大洲橋」の整備を推進!

赤間:千葉県として、約8キロメートルにわたって一般道路の橋がない地域における「広域避難」を可能とする為、東京都との緊密な連携による、「押切橋」「大洲橋」の整備を強力に推進すべきと考えるがどうか。

県土整備部長:県では、事業効果や橋梁取付部の調査などを進めるとともに、東京都と道路橋梁整備調整会議を行い、検討しているところです。今後も、防災上の観点や外環道開通後の交通動向なども踏まえ、橋梁計画の具体化に向けて、東京都や市川市などと密に協議を進めてまいります。

### ◆市川駅・本八幡駅におけるホームドア設置は急務!

赤間:千葉県として朝の通勤・通学の乗降客が大変に多く、県内路線で駅の利用者がトップクラスであるJR総武線の「市川駅」「本八幡駅」に関し、安全対策向上のため、早期のホームドア設置を働きかけるべきと思うがどうか。

総合企画部長:市川駅や本八幡駅のような利用者の多い駅については、混雑が激しく、安全対策としてのホームドア設置は、急務。県としましては、利用者が多く混雑状況の激しい駅や、身体の不自由な方が多く利用される駅などにつきましては、早期に設置されるよう、鉄道事業者に対し働きかけてまいります。

### ◆行徳野鳥観察舎の再開のための支援を!

赤間:千葉県行徳野鳥観察舎については、「行政改革審議会」が、「跡地については市川市と十分協議すべきである」と答申しております。市川市が観察舎を再開できるよう、千葉県として市川市を支援すべきと考えるがどうか。

環境生活部長:県では、行徳野鳥観察舎廃止後も、引き続き湿地の保全・管理、野鳥病院の運営を継続。行徳野鳥観察舎の跡地利用は、これまでも、市川市と協議を行ってきたところですが、今後も、市川市の考え方を十分聞きながら、協議を進めてまいります。



## オリンピック「聖火リレー」・4つの基本指針が明らかに!

赤間:聖火リレーのルート案を選定するにあたって、組織委員会が示した基本的な考え方はどのような内容だったのか。

オリンピック・パラリンピック組織委員:先月、組織委員会から示された基本指針では、「希望の道をつなごう」というコンセプトをかかげた上で、ルート選定の4つの基本的な考え方が明記されたところ。1.多くの人が見に行ける 2.安全・確実 3.誇れる地域 4.希望をもたらすことができるルートを提案してもらいたいとのことです。

### 公明党千葉県議会議員 赤間正明

◎ホームページ・<http://www.komei.or.jp/km/akama/>

◎メール・[masaakia36@gmail.com](mailto:masaakia36@gmail.com)

◎FAX・047-398-5834

# あかまさあき 赤間正明

千葉県議会

## 一般質問行っ!



安全で  
暮らしやすい  
街づくりを!



### ◎赤間まさあき・一般質問項目です。

1. 市川市の課題について (東京外かく環状道路、都県境、ホームドア、行徳野鳥観察舎)
2. 子育て支援 (家庭教育支援、ネウボラ、子どもの貧困)
3. アレルギー対策について (情報提供ウェブサイト、医療拠点)
4. 救急医療と防災について (津波防災対策、ドクターヘリ、避難カード、減災プロジェクト)
5. 運転免許自主返納 (シニア版チーパスカード、自主返納予約制)
6. 東京オリンピック・パラリンピックについて (聖火リレー)

救急医療・防災対策を推進！

●ドクターヘリによる交通死亡事故対策、「D-Call-Net」の促進を！

赤間：ドクターヘリによる世界初の交通事故対応の救急システム（D-Call-Net）の効果についてどのように認識されているか。また、千葉県として積極的に普及促進に取り組むべきと思うがどうか。

知事：ドクターヘリは、救命率の向上等に重要な役割を果たしており、「D-Call-Net」は交通事故が起きた際、その情報が病院と消防本部に通報され、ドクターヘリが速やかに出動できるシステム。

平成30年4月に国において、ガイドラインが策定。県としては、各消防本部への周知を行ったところです。

D-Call-Net：車のエアバックが作動するレベルの衝撃があると、死亡・重症確立と現場の位置等の情報がコールセンターに自動送信。重症度が5%を超える場合に、ドクターヘリの出動要請。

●津波防災対策を推進！

赤間：市町村への「津波浸水予測システム」の詳細な情報の提供について、どのように取り組んでいくのか。

防災危機管理部長：津波浸水予測システムについては、勝浦市、鴨川市、いすみ市及び一宮町の4市町の協力を得て、情報を受ける市町村が使いやすいよう、ハード・ソフトの両面から検討。今後は、順次、気象庁に予報業務の許可申請を行い、情報配信ができるよう進めてまいります。

赤間：地震・津波などの防災に関する情報を県民に正確に伝えるために、どのように取り組んでいるのか。

防災危機管理部長：県では、防災ポータルサイトの中で、防災に関する情報を分かりやすく解説するなど、県民の皆様にも正しく理解していただけるよう、取り組んでいます。今後も、スロースリップ現象など新たな情報を充実させてまいります。

●「ちば減災プロジェクト」の利用拡大を！

赤間：千葉県として、「ちば減災プロジェクト」のさらなる利用拡大を推進すべきと思うがどうか。

知事：「ちば減災プロジェクト」の協定締結以降、パイプエムでの放送のほか、県ホームページや県民だよりなどにより、周知を図ってきたところです。昨年は、1日平均で約3,000件の閲覧と、500件の投稿がありました。10月の台風21号の際には、平常時の約6倍になるなど、県民に浸透しつつあると認識しています。今後とも、より一層「ちば減災プロジェクト」の利用者が増加するよう、防災訓練やイベントで積極的にPRしてまいります。

●「避難カード」の活用を！「県民だより」に「避難カード」が掲載されました。

赤間：いざという時のために家族で避難先を話し合うことは、防災教育にもつながり効果が大きいと考える。「千葉県津波浸水予測システム」の詳細な情報を市町村へと提供することと合わせ、「避難カード」の活用を推進すべきと考えるがどうか。

防災危機管理部長：住民自身が、情報を書き込んだ「災害・避難カード」を準備しておくことは、有効な手段であり、県では、これまでカードの普及を市町村に促してきたところです。今後は、県民だより「災害・避難カード」及びその記載例を掲載し、より一層カードの活用を努めてまいりたいと考えています。

災害・避難カードを作って持ち歩きましょう

災害に備えて、いつ・どこへ避難するかあらかじめ家族で話し合しましょう。お住まいの地域の過去の災害や市町村の防災マップ、「ちば地震防災ガイド」なども確認し、自分の避難カードを作成して持ち歩きましょう。

詳しい情報はこちら [内閣府 避難カード](#) 検索

子育て支援・アレルギー対策を推進！

●妊娠出産子育ての切れ目のない支援を推進！

赤間：妊娠出産子育て支援のワンストップ拠点として子育て世代包括支援センターが法制化されたが、県として「医療機関と行政支援の切れ目」「福祉と教育の切れ目」の課題克服にどのように取り組むのか。

健康福祉部長：子育て世代包括支援センターには、保健・医療・福祉・教育等の関係機関の調整役として、妊産婦や乳幼児等に対する切れ目のない支援を提供する役割が期待されています。県としては、本年度から開始する「子育て世代包括支援センター設置支援事業」により、市町村におけるセンターの設置を後押しするとともに、センター業務に従事する職員に対し、研修会を実施するなど、人材育成にも力を入れてまいります。

赤間：就学後の「家庭教育支援」の更なる充実のため、「家庭教育支援チーム」による「ヘルト型」訪問等を推進すべきと思うがどうか。

健康福祉部長：昨年度から、国の事業を活用し、教員OBなどで構成する「家庭教育支援チーム」を設置する市町村を支援。今年度から、一部市町村において、悩みや不安を抱える保護者に支援チームが訪問する取組が始められています。今後、市町村に、働きかけ、できるだけ多くの家庭を支援できるよう努めてまいります。

●子どもの貧困対策のための「実態調査」が急務！

赤間：千葉県として、行政の支援を受けていない貧困世帯の現状を把握し、子どもの貧困対策を更に推進していくために、市町村と連携して「子どもの貧困実態調査」を行うべきと考えるがどうか。

健康福祉部長：県では、平成27年に国の大綱を踏まえ「千葉県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、「生活保護を受けている子どもの高等学校進学率・中退率」、「就学援助を受ける児童生徒数」、「児童扶養手当受給者数」など、子どもの貧困の実態や対策の効果などを示す10の指標を設けて、子どもの貧困対策を推進しています。現在の計画は、平成31年度までとなっていることから、新たな計画の策定に向けては、他県の取組なども参考に、実態の把握のために必要な調査のあり方について検討を進めてまいります。

●「アレルギー疾患医療拠点病院の整備・体制づくりを推進！

赤間：花粉症やぜんそく、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患対策について、適切な医療が受けられる体制づくりが重要であるが、千葉県における「アレルギー疾患医療拠点病院」整備等、体制づくりの現状と今後の取組はどうか。

保健医療担当部長：県では、本年3月、千葉大学医学部附属病院を「アレルギー疾患医療拠点病院」に選定。今後、拠点病院を中心に、診療の連携体制の構築や専門的な知識及び技能を有する医師等の育成を図り、医療提供体制の整備に向けて努めてまいります。

免許証自主返納者対象に「シニア版チーパスカード」の創設を！

赤間：千葉県として高齢者ドライバーの免許返納者に対して「シニア版チーパスカード」を創設し、高齢者の交通死亡事故対策・健康づくりを推進すべきと考えるがどうか。

健康福祉部長：運転免許証を返納した高齢者に、交通運賃や各種施設利用料などの優遇措置が受けられる取組を実施。また、健康づくり等の観点からのカード創設については、導入後の効果や課題等を情報収集し引き続き検証してまいります。

赤間：自動車の運転に不安を有する高齢者が県内の全交番・駐在所で免許証を返納できるように「予約制」の導入の環境整備を推進すべきと考えるがどうか。

警察本部長：昨年より千葉、流山免許センターの日曜受付等を開始。今後、利便性の向上に向け検討してまいります。